



開発教育支援の現場から 高校生国際協力実体験プログラム

8月7～9日にかけて33人の高校生がJICA札幌に集まり、国際協力や開発途上国の現状について考えました。

本で読んだり人から聞いたりするだけではなかなかわからなかった問題を、協力隊OB・OGやJICA研修員との実際の交流を通じ、そしてワークショップ「世界がもし100人の村だったら」に参加することによって、身近な問題として理解するとともに、参加した高校生の多くが「自分にも何かできる」「自分も何かしなければならぬ」と考え始めました。



上:タイからの研修員にタイの文化について質問する高校生
右1:ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」で人口問題をより身近に感じる高校生
右2:3日間で学んだことを発表するグループ発表。その準備をする高校生

このプログラムの詳細は
JICAホームページにも掲載しております。
<http://www.jica.go.jp/branch/hics/tpl/topics.html>

JICA札幌ニュース



JICA-NET(TV会議システム)で北海道札幌清田高校とマレーシアが交流 －札幌から－

北海道札幌清田高校はグローバルコースを設置し、「地域や文化の違いを正しく理解し、自分以外の人たちにも関心を持ち、地球的視野で活躍できる人物」の育成を目指しています。JICA札幌でも開発教育支援事業のモデル校として、JICA研修員の学校訪問、出前講座等様々な活動を札幌清田高校とともに行っています。

6月にはJICA-NET(TV会議システム)を活用しマレーシアのJICA研修員OBとの交流、出前講座、7月にはエジプトからのJICA研修員の学校訪問等を行いました。

グローバルコースでは英語教育に力を入れており、JICA-NETでの交流、出前講座によるJICAの概要説明、JICA研修員の学校訪問は通訳を交えず、英語で行いました。最初は戸惑いながらも、また英語でのコミュニケーションであるにもかかわらず、プログラムの終了時に研修員やマレーシアの研修員OBと打ち解けている高校生が印象的でした。



旭川市民ボランティアとJICA研修員とのであい －旭川から－

旭川では春から夏にかけてJICA研修事業関連で15を越える国から50名を越える方々が旭川に長期滞在し研修を受けたり、研修の一部として立ち寄りたりしていました。特に長期滞在する研修員は旭川での生活や日本での生活に慣れてもらうため、旭川市国際交流委員会に登録している市民ボランティアの方に、市内のスーパーなど生活に密着した施設の日帰り案内や、ホームステイを受け入れてもらっています。中には帰国してからも交流が続くケースもあり、仕掛けた側の一員としては非常に嬉しい限りです。(国際協力推進員(旭川) 鳥居)

旭川の国際協力推進員の連絡先

TEL:0166-27-1590 E-MAIL:jica-asa@atlas.plala.or.jp

住所:旭川市6条通10丁目旭川第三庁舎国際交流課内



異文化料理教室～チリ料理編～ －函館から－

去る、6月8日(水)函館市総合福祉センター「あいよる」にて異文化料理教室が催されました。異文化料理教室は食文化の違いを通して他の国を知るきっかけのひとつにしてもらおうと(財)北海道国際交流センターとの共催で今年の4月からはじまり、今回はチリ料理を行いました。講師はジャネット・ゴッシュリッヒさんと北大水産学部の大学院で勉強しているご主人のリチャードさんと一緒にチリ料理とチリの生活や文化についてお話していただきました。参加者は4つのグループに分かれて新しい料理に和気あいあいと挑み、普段とはちがった調理方法に関心を示しながら楽しんで料理していました。その後、リチャードさんがチリの国の紹介をし、チリの国は縦に長いので肉より魚介類のほうを良く食べたりしていることや、中でもチリ人はサケが大好きで一般によく食べるときの参加者はチリの国にとっても親近感をもったようでした。(国際協力推進員(函館) 岡田)

函館の国際協力推進員の連絡先

TEL:0138-22-0770 E-MAIL:jicpdpd-desk-hakodateshi@jica.go.jp

住所:函館市元町14-1 財団法人北海道国際交流センター内



マレーシアとの交流を楽しむ高校生



旭川医大でお茶を楽しむJICA研修員



料理のデモンストレーションをする講師のジャネットさん。「チリの料理は目分量なんですよね～、だからそれぞれの家にそれぞれの味があるんです」とジャネットさん